

降圧薬の服用は朝でも寝る前でも転帰は同等

これまでの研究では、降圧薬を朝に服用するより就寝前に服用したほうが、転帰が良好であることが示されている。本研究では、高血圧患者において降圧治療薬の服用を就寝前にしたほうが、朝に服用した場合と比較して主要な心臓血管転帰が改善するかについて前向き比較試験を実施し検討した。

対象は18歳以上の高血圧症患者で、降圧薬を1種類以上服用している者21,104例とした。被検者を無作為に1:1の割合で2群に分け、一方の群(10,601例)は降圧治療薬を朝6~10時の間に服用し、もう一方の群(10,503例)は就寝前20~24時の間に服用した。試験開始時の平均年齢は65.1歳、男性57.5%、女性42.5%、白人90.5%、黒人、アフリカ系・カリブ系。英国系黒人0.5%、7.8%は人種不明であった。心臓血管病の既往がある者は2,725例(13.0%)であった。2021年3月31日まで追跡(追跡期間中央値5.2年)した結果、試験中断者は就寝前服用群で5.0%、朝服用群で3.0%であった。主要な心臓血管転帰(心臓血管病死・非致死的心筋梗塞・非致死の脳卒中による入院)の発生は、就寝前服用群で362例(3.4%)、朝服用群で390例(3.7%)となり、両群間に有意差はなかった(非補正ハザード比0.95、 $p=0.53$)。

したがって、降圧薬の服用は朝でも就寝前でも主要な心臓血管転帰に変わりがないことが示された。

出典 : Lancet. 2022 Oct22; 400(10361): 1417-1425.